

名原会ニュース

平成 27 年 7 月 10 日版

○ 特別寄稿	1
名原会の皆様へ		山本 一良
名大15340日		庄司 多津男
近況報告		河原林 順
名古屋大学量子エネルギー工学教室に感謝		吉田 朋子
○ 活動報告	7
卒業生との集い		
原子力オープンスクール報告		
○ 教室の近況	8
職員の異動		
○ 研究室便り	8
○ 会員の声	16
新任のご挨拶		岡本 敦
新任のご挨拶		中谷 真人
Introduction (新任のご挨拶)		フォルカ ソネンシャイン
新任のご挨拶		渡邊 真太
感謝の意をこめて		藤田 達也
○ 核院会便り	21
○ お知らせ	22
会費納入のお願い／各種証明書類の請求について／名簿記載内容の変更・訂正／宛名ラベルの提供／ニュース掲載記事募集／個人情報の取扱について／名原会ホームページ URL 変更のお知らせ		
○ 会計報告	24
○ 編集後記	24

特別寄稿

「名原会の皆様へ」

山本 一良

名原会の皆様、こんにちは。山本一良です。2015年3月31日をもって、名古屋大学を退職しました。辞令は、浜口前総長からではなく松尾清一新総長からいただきましたが、その文面は次のようです。

『名古屋大学人事異動通知書（氏名）山本 一良（現職）国立大学法人名古屋大学理事（異動内容）任期は満了した平成27年4月1日 任命権者 名古屋大学総長 松尾 清一』

教員定年を2年、役員定年を1年超えていますので、辞令の文言がどうなっているか、想像もつかなかったのですが、肝心の主要部分は「任期は満了した」だけで驚くほど短く、ちょっと拍子抜けの気持ちがありました。3月31日の最終日まで、これまでの6年間とまったく同じ様に、会議、打ち合わせが日程表に書き込まれており、後任の松下工学研究科長とは、人形浄瑠璃の早替わりのような感じで入れ替わりました。そこで、1973年に助手として採用されて以来の42年間を回顧して感慨に耽るなんていう暇はまったくありませんでした。

昨日、教養教育院OCW事務室から小職の最終講義（3月12日）のビデオが送られてきました。その節は大変お世話になりました。まだ3ヶ月も経過していないのに、何だかずいぶん昔のような気がします（6月19日追記：ビデオ、PPT、配布資料は、既に名古屋大学OCW「名大の授業」にアップされています）。

さて、4月1日からは、近郊の名古屋学芸大学に世話になっています。最終講義の日にはまだ確定していませんでしたので、そのときには申し上げることができませんでした。卒業式の翌日に書類をもらい、教養教育を見直してくれ、と頼まれました。名古屋学芸大学は姉妹校の名古屋外国語大学と同じ敷地にあり、3学部構成ですが学生数は1学年700名弱しかいません。名古屋大学工学部よりも小さく、外国語大学とあわせても1500人弱で、極めて小規模です。教員、学生の男女比率は名古屋大学のそれとは反対で女性が圧倒的に多く、なんとなく居心地が悪くて、なかなか馴染めません。専任の教員、事務職員の数も少なく、多くを非常勤に頼っており、私学の経営は結構大変なようです。

狭いですが研究室も一部屋もらいました。敷地の東南側一番奥で、大きい道路からは遠く離れています。窓の外は林で、この2ヶ月間に、窓から数メートルのところに、カラス、スズメ（群れ）、ヒヨドリ、キジバト、ムクドリ（群れ）、メジロ（群れ）、

シジウカラ（群れ）、ハクセキレイ（2羽）、セグロセキレイ（2羽）、コゲラ、エナガ（群れ）、・・・がきて、枝から枝へ忙しなく飛び回っていました。ツバメも来ますが、これは枝には止まりません。完全に自然の中という感じです。

4月1日には、「ヒューマンケア学部教授」という肩書きだけでしたが、いつの間にか役目も増え、本日現在では

名古屋学芸大学 学長補佐（これは大学全体で一人だけ、学長、副学長、学長補佐、学部長という順番で評議員会構成員）、教養教育機構長（前機構長が病気で退任されたため急遽就任）、ヒューマンケア学部 教授

となっています（これで打ち止め）。今、この大学のことを勉強していますが、名古屋大学とは違う種類の問題もいろいろあるようで、前途多難な感じがします。

研究費は教材費、旅費等すべて合わせて年間60万円です。文系ならば何とかできるでしょうが、理系の実験等はまったく不可能です。名古屋大学勤務の終わりごろのような雑用中心の生活になりそうです。

こういう小規模な私立大学にきてみると、名古屋大学が極めて恵まれていることが良くわかります。現役教員の皆様方が研究、教育に一層力を発揮していただくことを期待して、この原稿をおしまいにします。（2015年6月4日記）

名大15340日

庄司 多津男

名大理学研究科（修士）に入学したのは1973年で高エネルギー天体物理の早川幸男先生のところから博士しか受け入れていなかった名大プラズマ研究所に非公式に配属させていただき、当時まだ黎明期だったプラズマ物理に飛び込みました。研究所は湯川先生の意向を基に設立された全国共同利用研究所で日本のプラズマ研究の中心的存在でした。研究者も体制も民主的かつ自由、活発で高温プラズマの物理解明に主眼が置かれていました。人員構成も若く、助手が大半を占め、研究所の方針を議論する全体会議には院生も参加して議論沸騰、喧々諤々で騒然となったことも覚えています。修士、博士の計4年間の間に国内外の研究者と、プラズマの様々な基礎研究などに明け暮れしていました。時々近くに住んでいる高山所長が、しかも日曜日の夜に私の実験室を訪ねて来て、研究成果を詳しく説明させられた事を懐かしく思い出します。その後1976年に池上先生が設立したバンピートーラスグループに助手として採用されて色々な分野の実験を担当しました。1986年に終結するまで、ORNLとの日米協力で相対論的高温電子プラズマの物理などの興味深い研究などに従事しました。この時代には、世界で様々な高温閉じ込め装置が考えられそのほとんどがプラズマ研究所にあり、私も直線装置（ミラー、カスプ）、トカマク、ステラレータ等何でもやりましたが、プラズマ物理としてはおおよそ尽くされていたように思います。何か新しい物理をと考え、高密度天体などに見られる強いクーロン相互作用が支配し相転移などの現象も予想されていた強結合プラズマの実験を模索していました。そして1988年に色々議論の末、プラズマ研究所が核融合に特化して土岐に移転するにあたり核融合に期待と興味を持てなかった私は、希望して当時工学部電気の築島先生の下で設立された名古屋大学プラズマ科学センターに残りプラズマを含む非線形物理の研究と教育に従事する事になりました。その後1994年には工学研究科のエネルギー理工学専攻に改組されて配置換えになり、2015年の定年に至った次第です。この期間にはプラズマ、非平衡、非線形物理、ブラックホールなど様々な研究が量子、理学部などの学生さん、共同研究者の助けを借りて遂行でき、感謝しております。現在はこれまでの実験室の一部を借りたレーザー・プラズマ加速、ブラックホールの実験、農業に関する新技術の開発研究やドイツでの美術活動に時間を費やしております。

量子エネルギー教室には教育等を通じて20年余りお世話になりました。感謝して退職の記にかえさせていただきます。

近況報告

河原林 順

平成27年4月より、名古屋大学から東京都市大学（旧武蔵工業大学、以下都市大）へ移動しました。3月までの19年間を名古屋でお世話になりましたので、かなり体が名古屋化してしまったのか、昔は苦にならなかった東京の通勤・通学ラッシュに対応できず、へろへろになりつつも毎日電車を乗り継いで世田谷キャンパスに出勤しております（とはいえたまに渋谷の地下で迷子になったり、世田谷線でICカードをタッチする場所を間違えたりしますが）。食べ物も中京圏と関東圏で若干の違いがあり、家族ともども戸惑いつつも少しずつ慣れていっております。

こちら都市大は、関東圏の私学ということで、学校の文化・雰囲気あるいは学生さんの気質も、名古屋大学とはそれなりに異なっております。私学は建物をきれいにして学生を呼び寄せる傾向があると勝手に想像しておりましたが、都市大ではそんなことは一部しかなく、結構ぼろい建物も大事に使用しており、あまつさえエレベータが設置されていない5階建の建物も利用されています。実は新しく着任した研究室がその建物に入っており、4月の着任時は書籍を持ち込むのに階段で担いで持ち上げる必要があったため、結構足腰に来ました。また、6月には横浜キャンパスで学園祭が開催されましたが、教員も監視名目で駆り出され、昼ごろから会場をぐるぐる回るお役目を仰せつかり、トラブルが無いように、あまり無茶をさせないようにと多くの気をまわす必要があります。講義時間も100分授業を採用しており、名古屋よりも10分長いので意外と1回の講義でみなさん疲れ気味になりますし、講師も喉の調子がおかしくなり気味になります。来期以降はクォーター制の導入も議論の俎上に上がっており、徐々に短期集中型へ移行していく見込みです。

大学院は都市大と早稲田大学とで共同原子力専攻を構成しており、講義は渋谷のサテライトキャンパスと称するビルの一室で実施しています。また中間発表会を各学年1回ずつ実施しており、西早稲田キャンパスまで出かけて行って学生のポスター発表にチェックを入れたり、日常で都内あちこちの場所を利用しています。1か所のキャンパスで全部教育を実施するというよりは、都内の公共交通機関の利便性を活用してできるだけパフォーマンスを上げようという意図が見て取れ、首都圏私学の努力の一面が感じられました。

学生の気質は比較的のんびりしており、やる気はあれど、どのように力を使ったらよいかわからないと見受けられる学生さんが多い模様です。今後、どのように研究室に引っ張り込み鍛えていくのか、様子を見つつ少しずつギアを上げていこうかと考えていますが、就職活動やインターンシップなど、大学を取りまく社会的情勢が変化する潮目にありますので、それに合わせて細かな対応の必要性を痛感しております。

以上つらつらと大学を移動した際の環境変化をつづってみました。ご近所へお越しの際にはぜひともお立ち寄りください。

名古屋大学量子エネルギー工学教室に感謝

吉田 朋子

1996年6月から2015年3月まで当教室でお世話になりました。2015年4月に大阪市立大学複合先端研究機構教授として着任し、また当教室の客員教員として引き続き学生の研究指導をさせて頂いております。この紙面をかりて皆様に感謝し、ご挨拶申し上げます。

私は、在学中は触媒化学の研究に携わっておりましたが、学位取得を機に原子核工学の分野に飛び込み、田辺哲朗・武藤俊介研究室において原子炉や核融合炉材料の放射線照射損傷に関する研究を始めることになりました。助手として着任した当時、固体の照射損傷に関する研究は照射後試料の構造解析が主流でしたが、動的な損傷過程を理解するためには放射線照射中の材料その場観察が不可欠であり、これを可能とする遠隔分光システムを構築することから研究に着手しました。原子炉心に置かれたセラミックス材料からの照射誘起発光・光吸収スペクトルの測定に成功した時には研究のやりがいを感じました。in-situ測定の魅力に気付いた後、赤外～ γ 線の様々な光照射下に置かれた材料の Raman・IR・XAFS測定等にも、その場観察手法の拡大を図るようになり、照射損傷だけでなく量子線照射によって発現する固体機能、エネルギー変換へと研究を展開することができました。光源・分光器・検出器を切り離し自由に組み合わせることや、放射線の有効利用を教えてくださいました田辺哲朗先生と大規模な実験システムと一緒に設計し構築してくれた多くの学生のお蔭と今でも感謝しています。

その一方で私は、専門としてきたX線吸収分光（XAFS）を照射損傷の研究に応用するべく、光電子分光法の概念に基づいた深さ分析測定法を構築したり、電子顕微鏡を利用した高空間分解分析を導入するようになりましたが、この時に「異分野融合」の重要性に改めて気付くことができました。特に後者の研究は、武藤俊介先生の生データに学ぶことが多く、先生の複合型電子分光分析に何度も感動したことを覚えています。また巽一蔵先生からは理論計算科学を、八木伸也先生・小川智史先生からは、軟X線XAFSを反応環境下で測定する技術を学びました。

この他にも、当教室の先生方から実に多くのことを学びました。研究を継続する力、短時間で研究効率を上げること、自らの仕事はいつでも中断・再開できるように努め学生指導に注力すること、研究を常に物理量で整理すること、如何なる状況でもリラックスし研究を最大限に楽しむこと、等々。学生と共に私も育ててくれたこの教室に感謝し、今後は新しい研究室を立ち上げながら、物理化学に立脚したエネルギー機能材料の開発と環境調和型化学反応の実現を目指して精一杯頑張りたいと思います。どうぞ今後とも宜しくお願い致します。

最後になりますが、19年間幸せな研究生活を過ごさせてくれた学生諸君に感謝しメッセージを贈りたいと思います。諸君は、自然科学に深く純粋に興味を示す非常に

優秀な学生で、とても素直な心の優しい人達ばかりでした。この長所は東海地方という恵まれた土地で育ち培われたものではないかと推測していますが、その分、この恵まれた環境において活躍するだけでなく、敢えて視野を広く持ち、優れた能力を是非世界で役立てて欲しいと願っています。常に未来に夢を持ち、様々な可能性に挑戦して頂きたいと思います。

活動報告

1. 卒業生との集い

平成 27 年 2 月 23 日（月）工学部 5 号館 521 号室にて「卒業生との集い」を開催いたしました。9 の企業・団体から卒業生が 12 名，本学の学生 36 名，教職員 4 名の合計 52 名の参加がありました。



講演会



懇親会の様子

卒業生との集いは，平成 14 年度よりほぼ毎年開催されており，今回で 11 回目となります。これまで盛会に行うことができましたのも教室を卒業された諸先輩方のおかげです。福島の新炉・復興の加速や，再稼働への道筋の方向性など，原子力分野では技術面・社会面双方に関連する重大な問題が山積しており，本教室の学生にとっても社会人としての自らの将来像を描きにくい時期でございます。そのような中であって先輩方が実社会にてどのような立ち位置から諸問題に取り組まれているかを直接知ることができる機会は大変貴重です。今後も卒業生から現役生へメッセージをお送りいただく場として毎年冬頃開催予定ですので，ご参加・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

2. 原子力オープンスクール報告

2014 年度も名古屋栄の電気の科学館のフロアをお借りして，原子力オープンスクールを開催しました。10 のテーマでの実験デモ展示を行い，元来五感を持って感じるのが困難な原子および量子線が示す現象について，小学生等の年少者が実験に直接参加することで興味を持ってもらうことが本催しの狙いです。会場入口での計数では来場者は，560 名でした。スタンプラリー台紙配布数は 345 枚でした。スタンプラリーを親子で楽しんでおられた参加者が数多く見られました。ご協力いただきました関係者の皆様にお礼申し上げます。

教室の近況

1. 職員の異動

中谷 真人	准教授に着任（エネルギー材料工学講座）	（平成 26 年 10 月 1 日）
フォルカ ソネンシャイン	特任助教に着任（エネルギー量子物性工学講座）	（平成 27 年 1 月 19 日）
渡邊 真太	特任助教に着任（エネルギー材料工学講座）	（平成 27 年 2 月 1 日）
河原林 順	転出（東京都市大学）	（平成 27 年 3 月 31 日）
庄司 多津男	定年退職（名城大学）	（平成 27 年 3 月 31 日）
山本 一良	定年退職（名古屋学芸大学）	（平成 27 年 3 月 31 日）
吉田 朋子	転出（大阪市立大学）	（平成 27 年 3 月 31 日）
岡本 敦	准教授に着任（エネルギー材料工学講座）	（平成 27 年 4 月 1 日）

研究室便り

『講座名』 Tel/Fax 052-789-XXXX

担当教官（◎：教授，○：准教授，□：講師，無印：助教）

エネルギー材料工学講座

『エネルギー機能材料工学グループ』 3607, 3792, 4689/4691, 3779

◎長崎 正雅，○柚原 淳司，○山田 智明，吉野 正人

6号館へ居室を移し工学研究科・長崎研究室となり、3年目となりました。原子核第一特別実験棟の改修、高圧ガス設備の設置もあり新しい環境となっております。新エネルギー分野への応用を念頭に、量子ビームを用いた材料の創製、表面・界面の評価、機能性薄膜・ナノ構造の創製、材料中の原子やエネルギーの移動の解析、などの研究を行っています。

「卒業生の皆様へ・・・」

今年度は、新しく加わった4年生：4人と修士：12人、博士：2人の合わせて18人でこれまでにない大人数になりました。一昨年引っ越した学生居室にも、入りきらないほどの人数となり、現在は二つの学生室ですごしております。実験装置も混雑していますが、協力しあって各自研究に励んでいます。近くにいらした際には是非お立ち寄り下さい。心より歓迎いたします。

エネルギー材料工学講座

『エネルギーナノマテリアル科学グループ』

3783, 3784, 3785

◎尾上 順, ○中谷 真人, 渡邊 真太

本年度で2年目を迎える新しい研究室です。物理・化学・数学・材料科学・ナノテクノロジー・計算科学を駆使して、ナノ炭素を含む新奇ナノ物質およびナノシステムを創製し、これらを、高効率な光電変換あるいは熱電変換機能を有するエネルギー変換機能材料やCO₂固定化・廃棄物処理などの環境制御・原子力基盤技術へ応用することを目標に研究活動に取り組んでおります。さらに、以上の研究を通して21世紀の安全かつ持続発展可能な社会構築に中心的な役割をはたす人材を育成することにも力点を置いております。

「卒業生の皆様へ・・・」

昨年度立ち上がったばかりの研究室ですが、東工大からの実験装置（超高真空装置や評価装置など）の移転も昨年末に無事完了し、現在、教員：3名、M1：5名、B4：3名の総勢11名で研究活動に取り組んでおります。研究室は工学部9号館（西棟）4階および原子核特別第一実験棟に所在しております。共に名古屋大学内では標高のかなり高い場所に位置しておりますが、それ以上に高いモチベーションをもって日々精進しております。研究室へのアクセスにやや難があり恐縮ですが、お近くにお越しの際には是非ともお立ち寄り下さい。

エネルギー材料工学講座

『核融合プラズマ理工学グループ』

4593/3935

◎藤田 隆明, ○岡本 敦, 有本 英樹

「地上の太陽＝核融合炉」のエネルギーを実現するために、(1) 小型装置によるプラズマ閉じ込め実験と大型装置プラズマ実験の解析、および(2) 核融合炉のシステム設計と核燃焼プラズマ解析の研究に取り組んでいます。

「卒業生の皆様へ・・・」

平成27年3月に、庄司准教授が定年退職されました。3月28日に第4実験棟を会場として庄司先生の退官パーティーが開催され、多くの卒業生が集まりました。実験装置はほぼ整理されていましたが、卒業生の皆さんは在学当時のことを懐かしく

思い出しておられたようです。4月には、岡本先生が准教授として着任されました。これまでも大学研究室でのプラズマ実験に携わっておられ、プラズマ閉じ込め実験のさらなる進展が期待されます。小型実験装置 TOKASTAR-2 においては、トカマクプラズマへのヘリカル磁場印加の効果が見え始めています。現在、学部4年生が3名、M1が4名、M2が3名で、教員を含めて13人のスタッフです。学生は全員8号館南棟に集約され、学生居室がにぎやかになりました。卒業生の皆様、名古屋に来られた折にはご遠慮なくお気軽に研究室にお立ち寄りください。また、皆様からの後輩へのご支援・ご要望などございましたらお知らせ頂ければ幸いです。

量子エネルギーシステム工学講座

『エネルギー量子制御工学グループ』

3775/3608

◎山本 章夫, 遠藤 知弘

原子炉物理学の理論に基づいて、計算機シミュレーションを駆使することで、高精度炉心解析手法や未臨界度測定技術の研究などを行っています。また、原子炉物理学の技術を他分野に応用することにも取り組んでいます。個々の学生が多岐にわたる研究テーマに取り組んで成果を挙げるとともに、日本原子力学会やアメリカ原子力学会の年会・大会をはじめとした学会発表にも積極的に参加しようと、高いモチベーションで頑張っています。

「卒業生へ・・・」

今年度は山本章夫先生と遠藤知弘先生の下、秘書1名、M2が5名、M1が4名、B4が3名の総勢15名(社会人Dr.を除く)で、日々研究などに精進しています。昨年度にはこれまで学生室を牽引してくださっていた先輩方のご卒業され、新年度は新たにB4の学生3名と、他大学から入学したM1の学生1名が研究室に加わりました。例年に増して多くの学生が集まり、これまで以上に賑やかな研究室として新年度をスタートしています。

研究室の詳しい様子は山本研究室のホームページから見る事ができます。またメンバーのプロフィール等を更新していますので、是非そちらもご覧ください。現在、当研究室がある工学部5号館は名古屋大学駅からすぐになっており、名古屋大学駅からのアクセスしやすいところにあります。名古屋へお越しの際は、ぜひともお立ち寄りください。皆様のご来訪を研究室一同お待ちしております。

量子エネルギーシステム工学講座

『原子力化学工学研究グループ』

3602/5936

◎榎田 洋一, ○澤田 佳代, ○杉山 貴彦

私たちの研究グループは、核分裂エネルギーや核融合エネルギーの利用のための総合基盤となる燃料サイクル・システムを実現することが最終目標であり、これに必須

となる実用工学技術の設計および開発を目的としております。当研究グループでは、最終目標を実現する研究体制として、化学状態研究ユニットおよび輸送現象研究ユニットの二つの研究ユニットを編成し構成メンバーが一丸となって研究をすすめております。

「卒業生の皆様へ・・・」

今年度の榎田研究室を構成するメンバーは、新たに学部生 3 名と材料工学コースからの飛び入り 1 名を迎え入れ、B4 が 3 名、M1 が 3 名、M2 が 4 名、教員 3 名に加え、技術補佐員の水野さん、川瀬さん、事務補佐員の吉谷さんとなっております。現在の榎田研究室の所在は、工学研究科 8 号館南棟 3 階となります。平成 23 年度より、榎田研究室と前身としての山本一良研究室の二つの研究室は統合され、新しい一つの榎田研究室となっておりますので、榎田研究室の卒業生の皆様、山本一良研究室の卒業生の皆様、各位、名古屋にお越しの際は、是非ともお立ち寄り下さい。

量子エネルギーシステム工学講座

『原子核計測工学グループ』

3797/3843

◎瓜谷 章, ○渡辺 賢一, 山崎 淳

中性子用新規シンチレータの高度利用法の開発、新型放射線検出器および測定法の開発、放射線治療時の線量評価法の開発、レーザー粒子線加速などに関する研究を進めています。また研究室の HP が一新されたので是非ご覧ください。(瓜谷研究室 HP : <http://www9.nucl.nagoya-u.ac.jp/>)

「卒業生の皆様へ・・・」

今春は四年生が 3 名加わり、M2 が 5 名、M1 が 3 名、B4 が 3 名と合わせて学生総勢 11 名となりました。定期飲み会を重ねるごとに新加入の学生も研究室の雰囲気慣れ、すっかり瓜谷研の学生らしくなっています。お昼休みに はみんなで食堂に行くなど、毎年同様仲良くにぎやかに過ごしています。また、今年度、加速器中性子源施設が建設され、より幅の広い研究ができる環境となる予定です。これらのように、より快適な環境で楽しく研究生生活を送っています。今年度は瓜谷研創設から 10 周年となり、10 周年記念会も現在企画中です。ぜひ機会がありましたら、研究室や飲み会などにご参加下さい。メンバー一同心からお待ちしております。

エネルギー量子物性工学講座

『量子放射線工学グループ』

4680/5127

◎井口 哲夫, ○富田 英生, フォルカ ソネンシャイン

私たちの研究グループでは、電子やイオン、エックス線・ガンマ線・中性子などのエネルギー量子がもたらす情報を、最先端のハードウェア及びソフトウェアを駆使して、多次元かつ高精度に計測するための革新的なシステム開発及び、量子ビーム計測

応用への展開に取り組んでいます。

「卒業生の皆様へ・・・」

今春、井口研を長らく支えてくださった河原林先生が東京都市大学へ教授として栄転されました。河原林先生、これまでありがとうございました。研究室には新しくB4が3名、M1が3名加わり、学生総勢18名となりました。また、今年1月からフィンランド・ユバスキュラ大学よりフォルカ先生が特任助教として加わっております。研究室は活気に溢れ、時には英語も交えて、賑やかに議論や雑談を交わしております。毎月の定例会や5月初旬に行われたOB会など、井口研恒例行事により新メンバーもすっかり研究室に溶け込んでいます。

OB会は年度末にも開催されますので、奮ってご参加いただきますよう、よろしくお願いたします。また、お近くにお越しの際には是非とも研究室にお立ち寄りください。井口研一同、心よりお待ちしております。

エネルギー量子物性工学講座

『エネルギー物性解析工学グループ』

4683/5155

◎曾田 一雄，加藤 政彦

表面界面ナノ構造における量子効果を中心とした新しい機能材料の開発に向け、放射光やイオンビームなどの高エネルギー量子ビームを用い、熱電材料や水素吸蔵材料などの機能材料の原子配列・電子構造と物性や反応を研究しています。

「卒業生の皆様へ・・・」

曾田研究グループは、学生（MC：7名、B4：5名）、教員ともども、学内イオンビーム表面解析装置を中心に種々の加速器施設へ飛び回りながら、学業と研究に励んでいます。産学行政一体となって整備した放射光施設「あいちシンクロトロン光センター」も、平成24年度に稼動開始となり、真空紫外線から軟X線領域のビームライン整備に力を注いでいるところです。イオンビーム表面解析装置室では、平成26年度の改修工事にともない、加速器2台（バンデグラフ加速器、イオン注入器）が故障してしまいました。そこで、平成27年度では、教員・学生が一丸となって、これら加速器の修理に多忙な日々です。

曾田研究グループの研究室は5号館5階、イオンビーム表面解析装置室とユーザー控え室は原子核第一実験棟です。先輩の皆様には、ぜひ、研究室へ来て元気な顔を見せ、後輩の活躍にエールと将来のアドバイスを送ってください。皆様のご活躍を期待しています。

エネルギー安全工学講座

『エネルギー輸送工学グループ』

4693/4692

◎辻 義之, ○伊藤 高啓

エネルギーシステムの安全性と経済性の向上を目指す研究をすすめています。原子炉の高経年化問題として配管減肉の流動加速腐食の研究を長年続けてきましたが、ようやく新たな知見を得るに至っています。学外との協力研究では、IFMIFの自由表面安定性や受動安全性を高めた原子炉冷却技術の開発をすすめています。基礎研究の観点からは、壁面乱流、プラズマ不安定挙動、量子流体（超流動ヘリウム）、沸騰熱輸送、粘性指状不安定挙動や三相接触線挙動といった新たな知見を広める研究もおこなっています。

「卒業生の皆様へ・・・」

昨年度は、中国からの留学生(Shan さん)が博士号を取得しました。現在は、華中科学技術大学で教員をしています。今年の5月には、20年前の研究室の卒業生の方々が同窓会を開いてくれました。皆さん、社会で立派に活躍されている様子をおうかがうことができ、大変に心強く思いました。HPも適宜更新しておりますので、時間がありましたらご笑覧下さい(http://www.ees.nagoya-u.ac.jp/~web_dai2/)。みなさまのますますのご活躍とご発展をお祈りしております。名古屋にお越しの際には、是非、本研究室にもお立ち寄りください。メンバー一同、心よりお待ちしております。

エネルギー安全工学講座

『エネルギー環境安全工学研究グループ』

3781/3782/4676

◎山澤 弘実, ○森泉 純, 平尾 茂一

エネルギー生産・消費にともなう種々の環境問題について汚染物質の動態把握・予測、放射線被曝防護を中心課題として、野外観測、室内実験、数値シミュレーションを駆使して研究しています。大気や地表面などの環境中での汚染物質や放射性物質の発生、移流・拡散、除去プロセスの解明を目指した研究、地球温暖化の原因物質の一つである二酸化炭素の動きを明らかにする研究、環境中の放射性物質による線量率変動に関する研究、放射性エアロゾルによる内部被曝に関する研究を進めています。

「卒業生の皆様へ・・・」

今年度は D3：1名, M2：4名, M1：5名, B4：4名と個性豊かな学生とともに、研究はもちろん、スポーツにも打ち込んでいます。今年はいつもの国内学会に加えて国際会議 ENVIRA2015（ギリシャ、9月）もあり、徐々に忙しくなりつつあります。さらにフットサル・ソフトボールが得意な学生を補強し、核院会スポーツ大会でのタイトル奪回をもくろんでいます。野外観測で雨風・暑さ・虫と格闘した日々、パソコンを目の前にしてエラーの多さに茫然とした日々、飲みながら毎晩語り明かした日々を思い出した時には、是非研究室にお立ち寄りください。これまでと変わらず皆様を歓迎致します。

エコトピア科学研究所

『エネルギー材料物性工学グループ』

5200/5137

◎武藤 俊介, ○巽 一徹, 大塚 真弘

我々の生活において、様々な特徴的な材料物性を有する機能性材料の存在は不可欠なものとなっています。このような機能性材料の開発には、何故、その特性が発現するのかを知ることが重要です。本研究室は、透過型電子顕微鏡を中心として新しい分析手法の開発やその実用材料分析への応用を通して、ナノの世界からこれらを解き明かすことを試みています。EELS/EDX/WDX/CL を備えたユニークな複合分析電子顕微鏡と超高圧電子顕微鏡(超高圧電子顕微鏡施設)を用いて世界に先駆けた研究成果を目指し、日夜努力を続けております。

「卒業生の皆様へ・・・」

今年度は修士課程が3人、4年生が2人となり、スタッフを合わせて総勢9名と昨年度より少し寂しくなりましたが、6月から2ヶ月間、ウプサラ大学(スウェーデン)から博士学生が留学して来てくれる予定もあり賑やかに過せそうです。グループの名前がまた変わったりしておりますが、中身は変わらずにやっておりますので、お近くにお越しの際はお気軽に研究室にお立ち寄り下さい。

エコトピア科学研究所

『環境機能材料工学グループ』

052-747-6828 (八木) /

052-789-5862 (小川) /

052-789-5855 (学生部屋)

◎八木 伸也, 小川 智史

”環境材料の創製とその物性評価”というテーマのもとに、持続可能なエネルギーシステムの実現に不可欠な機能性材料の開発と評価を行っております。主に金属ナノ材料の作製と、赤外から硬X線までの様々な波長の光や電子顕微鏡を用いた物性評価を行っており、物理学・化学・生物学といった垣根にとらわれない研究活動を推進しています。

「卒業生の皆様へ・・・」

昨年度末に、吉田朋子准教授が大阪市立大学にご栄転され、D3の塚田千恵さんが博士号を取得されました。今年度の八木研究室は教員2名、博士課程学生2名、修士課程学生3名、学部4年生3名に加えて博士研究員として新たな一歩を踏み出した塚田さんを加えて計11名となっています。研究室のある「研究所共同館」の周りでは工事がさかんに行われているため少し騒がしいですが、お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

アイソトープ総合センター

『応用核物理学グループ』

2569/2567

◎柴田理尋, □小島康明

原子核の核構造および崩壊様式の解明を行うことで、核データベースの構築を目指しています。そのために、京都大原子炉や原子力機構の加速器に設置されたオンライン同位体分離装置を使い、不安定核に対する β 線および γ 線計測を行っています。

「卒業生の皆様へ・・・」

M2：1名, M1：1名, B4：2名のメンバーで研究活動を行っています。研究室は相変わらずで、アイソトープ総合センターの4階にて活動しています。新しいデータ収集系APV8008が導入されました。高い計数率での効率的な測定が期待され、試行錯誤しながら活用を試みています。今年は、研究室対抗スポーツ大会のソフトボールに出ようと意気込んでおります。いい報告ができるように頑張りたいと思います。

名古屋にお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。メンバー一同、心よりお待ちしております。

支援組織

○ [材料量子エネルギー事務室]

3399/3225 安藤 元良 (教務, 量子エネ), 大野 陽子 (材料),
野村 和子, 北原 友美 (非常勤職員)

会員の声

新任のご挨拶

岡本 敦

平成 27 年 4 月 1 日付けで名古屋大学大学院工学研究科エネルギー理工学専攻の准教授に着任いたしました。マテリアル理工学専攻量子エネルギー工学分野（量子エネルギー工学教室）を併任しています。専門はプラズマ物理学で、核融合プラズマでは特に周辺部の温度が低いプラズマや、核融合反応で発生したアルファ粒子のプラズマ中の挙動に興味があります。

大阪大学理学部で物理学を学んでいたころに関連する様々な分野の書籍を読んでいて、プラズマ物理と磁場閉じ込め核融合に魅了されました。名古屋大学大学院理学研究科に進学し、核融合科学研究所兼任の田中雅慶先生のご指導の下、研究を進めてきました。大学院生の生活は、講義の単位が揃ったら土岐のサイトに通う毎日となりました。週に 1 回東山キャンパスでセミナーを行い、しばしば生協書籍部の洋書を立ち読みしたり、四谷通り沿いの古本屋に立ち寄りたりしたことは、楽しい思い出です。当時の面影を残す建物が大変少なくなったこと、地下鉄の開通で本山から歩かなくなったことは、少しばかり残念でもあります。大学院ではプラズマ中の流れ計測と渦構造形成について研究を進めてきました。研究対象は中性粒子と共存するプラズマで、核融合炉では周辺部のダイバータと呼ばれる領域、自然界では地球の電離圏などを念頭に置いた研究でした。学位取得後、東京大学高温プラズマ研究センターにポスドクの職を得たのを契機に、核融合炉ダイバータプラズマへ研究の舵を切りました。分光計測やレーザー計測のイロハを叩き込まれたのもそのころです。その後、東北大学大学院工学研究科では量子エネルギー工学専攻の助教として、ダイバータプラズマの研究と並行して、核融合反応生成物の放射線計測に関する研究にも参画しました。これから藤田先生、有本先生と共に、実験的アプローチで磁場閉じ込めプラズマの研究室を盛り上げていきたいと考えております。学生にとって研究は、考えることに慣れる最大のチャンスであると思います。実験的研究を通じて、緻密な計画・準備の重要さと、机上の空論ではなく実験データを取得しないと新たな展開が得られないということも体得してもらえれば と思います。核融合炉の実現にはまだ長い年月が必要なため、実現への意欲と幅広い見識のある人材を、専攻・学科および研究室での教育活動を通じて継続的に育成していきたいと考えております。今後ともよろしく願いいたします。

新任のご挨拶

中谷 真人

平成26年10月1日付でマテリアル理工学専攻量子エネルギー工学分野エネルギー材料工学講座の准教授に着任いたしました中谷 真人(なかや まさと)と申します。

これまで、修士課程2年次に理化学研究所へ技術研修生として配属されて以来、約13年半に渡って独立行政法人[理化学研究所(埼玉県和光市), 物質・材料研究機構(茨城県つくば市), 科学技術振興機構 ERATO プロジェクト(神奈川県川崎市)]を主な研究活動の場として参りました。大学の専任教員を務めさせて頂くことが初めてということもありまして、至らない点が多々あるかと思っておりますが、量子エネルギー工学教室の教員として一日でも早く研究・教育の戦力としてお役に立てるよう、先任の先生方を手本とし日々精進して行く所存でございます。

学生時代には電気・電子工学科に所属し、固体電子物性から、半導体素子、アナログ・デジタル電子回路、各種の発電や電力伝送システムなど、電気エネルギーの生成・伝送・利用に関連する基礎科学・技術を広く学ぶ機会に恵まれました。私が研究者を志して博士課程へ進学した当時は、シリコン半導体素子の高集積化限界に対する強い懸念から、代替素子の実現へ向けた駆動原理・構成材料の研究開発が世界中で活発に推進されておりました。私自身も「オリジナルな電子素子を実現したい!」という野望を胸に秘めて研究活動を開始し、フラーレン分子の重合・解重合反応を室温で可逆制御するための基礎研究やそれを利用した不揮発メモリの開発などを進めて参りました。研究活動を通して、世界で最初に何かを成し遂げる感動・喜びを体験できたことは、私にとって、かけがえのない財産となっています。学生の皆さんにも是非この体験をしてもらうべく、日々の研究・教育に注力して参りたいと考えております。

名古屋大学では、これまで培ってきた材料科学・分子エレクトロニクス等に関する知識・技術をもとに光電・熱電変換などのエネルギー生成機能を有するナノシステムを分子材料から構築することを目標に掲げて研究を進めております。安全かつ持続発展可能な社会の構築に資する研究成果・人材を世界へ送り出すべく日々の研究・教育活動を進めて行きたいと考えておりますので、今後とも、ご教授・ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

Introduction (新任のご挨拶)

Volker Sonnenschein (フォルカ ソンネンシャイン)

It has been only about half a year since I started my research here in Nagoya in the group of Prof. Iguchi at the Department of Quantum Engineering. Nevertheless I already had many enjoyable and interesting experiences during my stay here, starting from several welcome parties, over inter-group soccer games as well as learning about the Japanese language and culture.

I started my career in physics at the University of Mainz in Germany. While Mainz is only a mid-sized town of barely above 100000 inhabitants, it has a quite young populace and as such the university itself is quite large and diverse. I finished my master's thesis in the group of Prof. Klaus Wendt, where I got my first hands-on contact with laser technology and related field of atomic spectroscopy and laser ionization.

Through experience in collaborative activities I decided to move to Finland and work at the IGISOL laboratory, a facility similar - though different from the more well-known ISOLDE facility at CERN. By using a high-powered ion beam to induce nuclear reactions in a target, and analyzing the reaction products, the aim of IGISOL is to gather ever more information on exotic, unstable nuclei to improve our understanding of astrophysics and nuclear models. During my PhD thesis I performed laser spectroscopy on the elements $^{227}\text{Actinium}$, $^{229}\text{Thorium}$ and $^{238-244}\text{Plutonium}$ and continued development of the required laser technology.

Now here in Nagoya I partially moved on from atomic- to molecular spectroscopy and focus on the technique of cavity ring-down spectroscopy for trace detection of $^{14}\text{CO}_2$. If successful the project may be of benefit for medical drug development, where ^{14}C would be an ideal tracer to study the distribution or acceptance of these drugs in the human body.

新任のご挨拶

渡邊 真太

[エネルギー材料工学講座]

エネルギーナノマテリアル科学グループ・尾上研究室

平成 27 年 2 月 1 日付けでエネルギーナノマテリアル科学グループ・尾上研究室に特任助教として着任いたしました渡邊と申します。平成 21 年から 24 年にかけての 3 年間、研究員として長崎研究室に在籍しており、量子エネルギー工学教室へは、今回で 2 度目の着任となります。その際は、長崎先生、柚原先生、山田先生、吉野先生にご指導を頂き、大変有意義で幸せな研究員生活を送らせていただきました。今回、縁あって、再び量子エネルギー工学教室にお世話になることになり、大変光栄に思っております。

私の専門は、理論計算と放射光分光実験を活用した無機材料の解析・設計で、これまでは主に蛍光体・固体レーザー・シンチレーターといった発光材料の研究を行ってきました。特に、酸化物やフッ化物といった広いバンドギャップを有する結晶に、遷移金属イオンや希土類イオンを微量添加した系において、それらのイオンによって発現する特異な光物性について、理論・実験の両面から研究を進めてきました。現在、尾上研究室では、原子力関連材料について、理論・実験の両面から研究を進めております。

今振り返りますと、量子エネルギー工学教室の長崎研究室で過ごした研究員生活は大変充実しておりました。化学系出身の私には、初めて出会う研究分野が多々あり、戸惑いながらも新鮮で、研究の幅を広げることが出来た有意義な研究期間だったと思っております。その一方で、量子エネルギー工学教室への貢献という意味では、その責務を果たせず離職したという思いがあります。このたび、特任という立場ではありますが、再び量子エネルギー工学教室の一員に加えていただき、大変光栄であると思うと同時に、今度こそは、少しでも量子エネルギー工学教室に貢献できるよう精進したいと思っております。また、学生の皆さんには、研究活動を通して、真理の探究や新しい発見の楽しさを伝えていきたいと考えております。

最後になりますが、至らぬ点が多々あるかと存じますが、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

感謝の意をこめて

藤田 達也

(平成26年度博士課程後期課程単位取得退学)

平成26年3月に名古屋大学大学院博士課程後期課程を単位取得退学(平成27年3月に学位取得)しました藤田達也と申します。私は、学部4年生で山根研究室(現在の山本研究室)に配属後、6(+1)年間に渡って、原子炉物理学の特に炉心解析手法に関する研究を行ってきました。この間、量子エネルギー工学教室の先生方、恩師の山根名誉教授・山本教授・遠藤助教、研究室の先輩・後輩には、多くのことを学ばせていただきましたこと、この場を借りて御礼申し上げます。

今回に執筆させていただくに当たって、何を書かせていただくか考え、学生時代を振り返って面と向かってはなかなか言えないことを書くことにいたしました。

1 つ目は、「同期」のことです。私は、正直なところ、真面目な学生というわけではありませんでしたので、それまでサボっていた(?)ツケもあり、配属後の研究生生活や大学院入試の勉強には、かなり苦勞しました。そんなとき、(たまに衝突もしましたが)研究室の同期がいろいろと手助けをしてくれたことを、今でも覚えています。また、研究の進め方について悩んだときには、相談に乗ってくれたり、アドバイスをくれたりしてくれたこと、思い返すとすごくありがたいことだったと感じています。卒業して、かれこれ5年になりますが、今でもよく連絡をとりあい、プライベートなことや仕事のこと(愚痴を含む)などを話しています。数年間はあまり長くないかもしれませんが、私にとっては、同期はすごく大きな存在になりました。

2 つ目は、「先輩」のことです。研究室での生活の中で、いろいろなことを先輩方に教えていただきました。その中でも特に、後期課程への進学・卒業後の就職について考えているときには、大変お世話になりました。普段はどちらかというと楽観的な私ですが、後期課程への進学・卒業後の就職についてはすごく悩みました。そんなとき、学会や卒業生と集う会などで先輩方にお会いし、ご自身の経験をお話しいたいたり、こんなことをしてみてもどうかと提案いただいたりしてことは、その後の進路選択をする上での貴重な意見でした。頼れる先輩がいたことは、大きな幸せだと感じています。

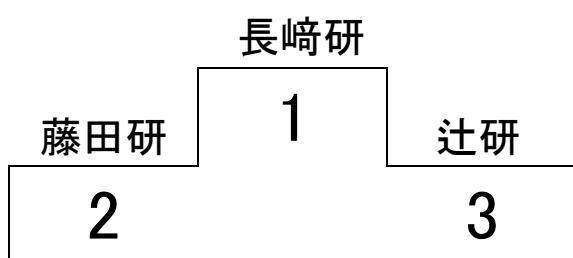
長々と書いてしまいましたが、多くの方々のお世話になりながら、今の自分に成長できました。現役学生の方々には多くの方々と積極的に関わり関係を築いていってほしいと思うとともに、私も今後は頼れる先輩の一人になればと思います。

最後になりましたが、このような執筆の機会を与えていただきました編集事務局の方に御礼を申し上げ、私の「会員の声」とさせていただきます。ご拝読いただき、ありがとうございました。

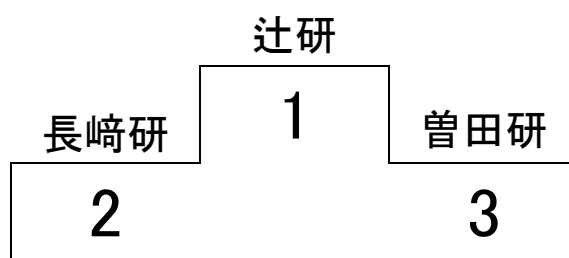
核院会便り

平成 25 年度の核院会では例年のように名大祭での研究室紹介，研究室対抗のスポーツ大会等を行いました。名大祭では各研究室が一般の来場者の方々に研究内容の紹介や関連する実験を行い，展示会場は参加者で大いににぎわいました。また研究室対抗でフットサル，ソフトボール，リレーの大会を行い，スポーツを通して研究の気分転換や各研究室同士の学生の交流を深めることができました。各競技の大会の結果は以下ようになりました。各研究室のみなさま，お疲れ様でした。

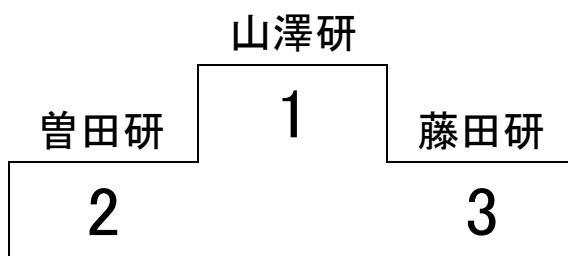
・フットサル大会



・ソフトボール大会



・リレー大会



お知らせ

1. 総会のお知らせ

「名古屋大学ホームカミングデー」にあわせ、2015年10月17日（土）に名原会総会・懇親会を開催いたします。（詳細は同封の案内をご参照下さい。）皆様、万障お繰り合わせの上、ご出席頂きますようお願い申し上げます。

2. 会費納入のお願い（重要）

会員の皆様との連絡を密にとりたいとの観点から、皆様にはお手数をお掛けしておりますが、会費を毎年納入頂く形を取っております。年会費は 1,000 円です。7～8 年ほど前から会費収入が減少の一途をたどっており、このまま行きますと、同窓会活動を継続することが困難な状況となります。納入手続きには、お手数はお掛けしますが、お忘れなく会費の納入をお願い致します。同封の振込用紙にてお振込みください（手数料は名原会が負担）。同封の振込用紙を用いない場合は、下記までお願いします（手数料をご負担頂くこととなります）。

◎ゆうちょ銀行より振り込む場合

加入者名 原子核工学科同窓会

口座番号 00880-8-79447

◎その他の金融機関より振り込む場合

銀行名 : ゆうちょ銀行

金融機関コード : 9900

店番 : 089

預金種目 : 当座

店名 : 〇八九 店（ゼロハチキユウ店）

口座番号 : 0079447

3. 各種証明書の請求について

卒業・修了証明書等、各種証明書をご入用の際は、直接工学部教務課へご請求下さい。その際には、下記のことを同封してお申し込み下さい。

- 長型3号（ほぼ120×235mm）が入る返信用封筒
- 厳封か否かの表示
- 学科、卒業年
- 氏名、生年月日
- ローマ字綴り（英文の場合）

4. 名簿記載内容の変更・訂正

随時、名原会名簿の改訂を行っています。記載事項に訂正のある方はご連絡下さい。葉書、FAXのほか電子メールでもお受けいたします。また、名原会ホームページにも名簿記載内容変更フォームを開示していますので、ご利用ください。

5. 宛名ラベルの提供

宛名ラベルの提供を有償で行っております。ただし用途は同窓会あるいは学科、研究室に関する活動に限ります。費用につきましては人数等で異なりますのでご相談下さい。

6. ニュース掲載記事募集

勤務先や住所変更等、また催し物などについて会員にお知らせしたい方は名原会までご連絡下さい。年に1回の発行ではありますが、名原会ニュースに掲載してお知らせいたします。

7. 個人情報の取扱いについて

名原会会員の個人情報の取扱いに関し、下記の項目をご確認下さい。

○登録の個人情報は下記の目的に利用します。

- ・会員名簿への掲載（工学部・工学研究科，全学同窓会も含む）
- ・本同窓会（工学部・工学研究科，全学同窓会も含む）からの各種通信文書の送付（会誌・同窓会関連行事案内等を含む）
- ・その他，会則に定める事項の遂行に必要と判断された諸事業

○会員名簿作成における自己情報の提供は任意です。

氏名以外で、名簿掲載を希望されない内容がございましたら、その旨、会誌「名原会ニュース」に記載されている問合せ先までご連絡下さい。尚、ご連絡のない場合は、内容に変更ないものとして名簿に掲載いたします。

○登録の個人情報は、委託先も含め機密保持には万全を尽くします。

また登録の個人情報は学校・同窓生以外の第三者へは開示いたしません。

○自己情報を照会したい場合は、会誌記載の問合せ先までご連絡下さい。

ご本人と確認できた場合に限り開示いたします。

8. 名原会ホームページ URL 変更のお知らせ

平成 24 年 5 月に量子エネルギー工学教室のホームページがリニューアルされました。それにともない、名原会ホームページの URL が、以下の通りに変更となっています。お手数ですが、リンクや「お気に入り」に登録されている場合は変更をお願いします。

<http://www.nucl.nagoya-u.ac.jp/alumni/meigenkai.html>

会計報告

平成26年度 会計報告

収入

会費	260,000
全学同窓会	
余剰金払戻	88,000
繰り越し	206,419
計	554,419

支出

ニュース発行		
および発送	217,383	
卒業生との集い	72,500	(懇親会費)
その他	19,520	(会費振込時手数料等)
(小計)	309,403	
来期繰り越し	245,016	
計	554,419	

編集後記

今年度の名原会ニュースでは、先生方の異動が重なり多くの方に寄稿いただきました。異動されたご本人からの声をタイムリーに読者の皆様に届けようと、できる限りの先生方にご協力いただきました。新しく教室に加わられた先生方からの言葉からも、活気のある現在の教室の雰囲気を感じられると思います。一方で、まだ原子核工学専攻だった私の学生時代に、講義だけでなくお酒の席でもお世話になった先生方も退職や転出されるので、編集作業をしながら寂しさも感じました。先輩方から教えていただいた研究の楽しさを糧にして、今後も研究・教育活動に取り組もうと、気持ちを新たにしました次第です。これからもスタッフ一同、努力してまいりますので、皆様からの暖かい叱咤激励のほど、よろしくお願い申し上げます。

(平尾 茂一)

現役員

会 長	中川 和道	(昭和 47 年卒, 神戸大学)
副会長	相良 明男	(昭和 49 年卒, 核融合科学研究所)
	曾田 一雄	(昭和 52 年卒, 名古屋大学)
幹 事	瓜谷 章	(昭和 59 年卒, 名古屋大学)
	柴田 理尋	(昭和 63 年修卒, 名古屋大学)
	有田 裕二	(平成元年卒, 福井大学)
	柚原 淳司	(平成 3 年卒, 名古屋大学)
	森泉 純	(平成 3 年卒, 名古屋大学)
	小島 康明	(平成 6 年卒, 名古屋大学)
	伊藤 高啓	(平成 6 年卒, 名古屋大学)
	杉山 貴彦	(平成 7 年卒, 名古屋大学)
	渡邊 将人	(平成 7 年卒, 中部電力株式会社)
	渡辺 賢一	(平成 10 年修卒, 名古屋大学)
	富田 英生	(平成 14 年修卒, 名古屋大学)
	遠藤 知弘	(平成 14 年卒, 名古屋大学)
	平尾 茂一	(平成 15 年卒, 名古屋大学)
	林 裕晃	(平成 17 年修卒, 徳島大学)
	小川 智史	(平成 21 年卒, 名古屋大学)

名原会・名原会ニュース・名簿に関する問い合わせ先

〒464-8603 名古屋市千種区不老町 名古屋大学工学部

物理工学科(Ⅱ系)量子エネルギー工学コース 名原会

TEL 052-789-3606 (遠藤 知弘)

e-mail t-endo@nucl.nagoya-u.ac.jp

量子エネルギー工学コース事務室

TEL. 052-789-3399 (安藤 元良)

FAX. 052-789-3225

教室ホームページ <http://www.nucl.nagoya-u.ac.jp/>

名原会ホームページ <http://www.nucl.nagoya-u.ac.jp/alumni/meigenkai.html>